



## 育英学園での平和出前講座の実施

厚田梨帆（長崎大学多文化社会学部3年）

私たちはニューヨーク育英学園で、平和出前講座を小学5、6年生の計24名を対象に「私と核兵器」というテーマで実施し、核兵器の危険性は昔のことではなく



現在の世界にも存在しているということを考えてもらいました。

74年前の被爆の実相より、現在の情勢に興味を持っており、核兵器と自分を繋げられている子どもたちが大半でした。講義を行った後に「私と核兵器はどのような関係にあるのか」について深く考えて模造紙に書いてもらいました。

私は今回初めて海外で授業を行ったため新鮮に感じることが多く、改めて今後の平和出前講座について考え直す契機となりました。



## AFTER THE TRIP

帰国後

### 学ぶ側から伝える側に

何雲艶

（長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科 博士研究員）

帰国後、私たちは核兵器廃絶の必要性を強調するとともに「人類みなヒバクシャ」であるという意識を周りや次世代に継承してもらうという目標のもとに活動を行いました。私たちは活動報告会をはじめ、全国の教育機関や市民団体で出前講座を行います。出前講座では、核兵器廃絶における今日の国内外の情勢を伝え、核兵器を巡る問題を一緒に考えていくことを目的としています。その他にも、私たちは世界の若者とのネットワーク作りや他の平和団体との連携など、様々な活動を企画・実践してきました。



# 7 QUESTIONS ABOUT US

ナガサキ・ユース代表団に関する7つの質問

## Q1.

ナガサキ・ユース代表団って何?

長崎県、長崎市、長崎大学の3者が構成する『核兵器廃絶長崎連絡協議会』(PCU-NC)が主催する人材育成プロジェクトです。2013年に第1期生の活動が始まりました。次世代を担う長崎の若者が、核や平和の問題を実践的に学び、この分野で活躍する国内外の人々と出会うことで、自ら考え、行動する力を身に付けることをめざしています。

2019年度は、公募で選ばれた9名の長崎の大学生及び大学院生がニューヨークの国連本部で開催された『2020年核不拡散条約(NPT)再検討会議第3回準備委員会』(右ページ囲み参照)への参加を中心に、様々な活動を行いました。

## Q3.

費用は誰が負担するの?

A. 活動にかかる費用の一部を核兵器廃絶長崎連絡協議会が活動支援金として拠出します。2013年~19年の場合は、国際会議への参加にかかる旅費・滞在費として、一人あたり一律20万円が支給されました。不足分が出た場合は個人負担となります。国際会議参加準備のための勉強会や参加後の活動については、核兵器廃絶長崎連絡協議会が原則その費用を負担します。

## Q2.

誰が応募できるの?

A. 募集対象は、長崎県内に在住・在学・在勤の大学生・院生、および同程度の年齢の若者です(18~25歳を目安)。高校生(応募時)は不可。国籍は問いません。核兵器問題に関心があり、本プロジェクトの活動を通して、こうした分野での知識や経験を得たいと希望する若者、公式の活動期間が終了した後もなんらかの形で『核兵器のない世界』の実現のための活動にかかわっていく意欲のある若者を求めます。大学での学部や専攻等は問いませんが、日本語・英語での一定のコミュニケーション能力は必須です。また、活動に求められる知識を得るための勉強会や、企画、準備のためのミーティングに原則すべてに参加可能であることが求められます。

## Q4.

誰がメンバーを選ぶの?

A. 選考は2段階で行われます。1次審査は志望動機などが書面審査されます。2次審査は日・英による面接です。長崎大学及びレクナの教員だけではなく、他大学の教員・英語のネイティブスピーカー、長崎県、長崎市の担当者の参加も得て審査を行います。

## Q5.

核問題を専門的に勉強して  
いなくても大丈夫?

A. 大丈夫です。選考後の学習を通じて、核問題の基礎から最新情勢までを幅広く学ぶ機会があります。長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)の教員に加え、学外の専門家を招いた講義やワークショップも開かれます。また、長崎の被爆の実相やその背景についても学習します。第7期生の場合は、選考からニューヨーク出発までの間に、20回以上の勉強会と集中講義を受講しました。



## Q7.

帰国後の予定は?

A. 長崎県、長崎市、長崎大学及び一般市民の方への活動と成果の報告を行った後は、8月末の任期満了まで、一連の活動を通じて得た知識や国内外の人々とのネットワークを活かし、全国での平和教育の出前などの活動を展開していきます。

任期満了後の活動は『ナガサキ・ユース代表団』メンバーとしての義務ではありませんが、一人一人が自分の経験を活かし、何らかの形で核問題にかかわっていくことが奨励されます。実際、ユースメンバーに対しては、一年を通して交流や講演、取材の依頼が多数舞い込みます。また、核兵器廃絶長崎連絡協議会や RECNA が主催する核問題のセミナーやシンポジウム、様々なイベントに参加することで、さらに知識を増やし、経験を積んでいくことが可能です。



## Q6.

現地の活動内容は?

A. 大原則は、『自分たちのプログラムは自分たちで創る』です。第7期生が参加したNPT再検討会議準備委員会には、各国政府代表だけでなく、世界各地から国際機関やNGOの関係者、専門家、大学生などの若者世代が多数集まり、政府の会議と並行して毎日さまざまな会議やワークショップなどを開催しました。ユース代表団のメンバーは、それらに参加するだけでなく、国連内の会議室を使って自主ワークショップを実施しました。各国の外交官との意見交換や国際機関や日本語学校への訪問なども行いました。こうした活動は、SNSを通じてリアルタイムに情報発信され、多くの人々に共有されます。参加者一人一人が自分の興味や関心、目標に沿って、オリジナルの現地活動プランを立てていく、というのがナガサキ・ユース代表団の活動の醍醐味と言えるでしょう。

### 『2020年NPT再検討会議 第3回準備委員会』って何?

1970年に発効した『核不拡散条約(NPT)』は、その名前の通り、核兵器保有国が増えることを防ぐために作られた条約です。条約締約国は191か国(2003年に脱退表明した北朝鮮を含む)で、インド、パキスタン、イスラエルの3か国は加入を拒否しています。

NPTでは、米、ロ、英、仏、中の5カ国を『核兵器国』、それ以外を『非核兵器国』と定め、前者には核軍縮に向けた交渉を誠実に行うことを求め、後者には核兵器の開発や取得を禁じています。また、条約締約国には『原子力の平和利用』(原子力発電など)の権利が認められています。

条約で定められた義務がきちんと守られているかを検討するため、5年ごとに開かれる会議が『再検討会議』です。次回2020年の再検討会議に向けて、2017年から3回の準備委員会が開かれ、各國政府代表が意見を交わします。来年2020年はニューヨークでいよいよ再検討会議が行われます。

# OG&OB VOICE

6期生

原田怜奈



(長崎大学多文化社会学部多文化社会学科 4年)

ナガサキ・ユース代表団では、国際会議への参加や核廃絶への主体的なアプローチを経験できます。「入って良かった!」と感じることができたのは、同じモチベーションと志を持つ仲間たちとの出会いがあったからです。メンバーと共に勉強、議論し、成長する。時には意見がぶつかり、思い通りにいかないこともあります。実際に、国連でプレゼンをすることになった際、メンバーと何度もミーティングを重ね、意見をぶつけ合いました。本番ぎりぎりまで推敲や練習を重ねた結果、納得のいくプレゼンができました。その“本気”で取り組む過程こそが、核兵器問題などの、絶対的な正解のない社会問題に取り組む上で活きてくる経験となります。社会問題に“本気”で取り組みたい方、チームワークを通して成長したい方、ナガサキ・ユース代表団には是非挑戦してみてください!

5期生

北里友佳



(長崎大学多文化社会学部多文化社会学科 4年)

被爆者の高齢化は無視できない問題になってきました。いずれ被爆者がいない世界がやってきます。このままいいのか? のために私たちは何ができるのか? ナガサキ・ユースでは、その“何ができるのか”を学び考え、行動に移します! 学びの場では“ナガサキの若者”という強みを生かし世界中のいろんな人に出会い、交流し、学ぶことができます。時には国のトップの方や著名な方と学び交流する機会も! また、2020年は5年に一度のNPT再検討会議の年です。歴史的瞬間に立ち会い、国際情勢の最前線に行くことができます! そんな恵まれた環境で学ぶなか、どう考え行動するかは自分たち次第! 正解はありません。みんなでたくさん学んでたくさん考え、実践してきた時間は、私がそうだったように、必ず人生の宝物となり、これからも繋がっていきます。世界の次世代を担うのは若者です! 若者には若者のパワーがあります。世界に通用する「ヒロシマ・ナガサキ」の若者として世界を舞台に全力で共に学び共に考え共に行動を起こしていきましょう!

## ■ 編集発行責任

核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

※PCU-NCは、長崎県、長崎市、長崎大学の3者による核兵器廃絶のための協議体。

核兵器廃絶  
長崎連絡協議会  
PCU Nagasaki Council

3期生

竹田穂



(輸入・小売業社勤務)

私がユースで学んだことは、人と向き合うことの大切さです。まずは被爆の方々と向き合い、原爆の実相を学び、彼らの思いを受け取ります。それに加えて現在の問題、情勢を学んだら、自分自身と向き合います。自分自身がどう思い、考えるのかをはっきりさせ、意見を持ちます。核問題はもちろん、すべてのことに言えますが、いろいろな意見を持つ人がいます。似た意見を持つ人、正反対の意見を持つ人、様々ですが、100%同じ意見を持つ人はいません。しかし、意見の異なる人を非難するのではなく、なぜその意見を持つのか、なぜ自分とは違うのかを、相手と向き合い、理解しようすることが大切です。衝突するものもあります。しかし、衝突した相手と真摯に向き合い、耳を傾け、認め合おうとすることが大切です。ユースに参加するしないにかかわらず、これを読んでくださっている方全員にこのことを大事にしてほしいと思っています。

6期生

三浦大輝



(サセックス大学 国際学国際開発学 環境開発学科)

少しでも興味があれば、動きましょう! そうして、僕はユース代表団の一員になりました。

活動後、イギリスの大学院に進学。学生に自身の出身地が長崎だと話すと、100%の確率で「(被爆した歴史も含め)知っている」と言われました。日本についてあまり知らない方でも、やはり長崎と広島は知っていると。その時、ユースでの活動の有無で大きく異なっていただろうと思う出来事があります。それは、「核」に関する事柄(歴史、現状、国際関係)を伝えられたこと、話し合えたことです。これは6期での活動、自分が学び体験したことだけがなければ、そんはずはならなかったと思います。そうした会話をできたことが、院での生活を一段と充実させてくれたと感じています。

活動をしているのに何も得られないということはありません。活動を通して得られるもの(知識、視野、ネットワーク、技術、価値観など)は、どの方にもありますし、非常に大きいと思います。ナガサキ・ユース代表団で活動してみませんか?

## ■ お問い合わせ先

核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

〒852-8521 長崎市文教町1-14  
(長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)内)

TEL: 095-819-2252 / FAX: 095-819-2165  
<http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/pcu/>

「ナガサキ・ユース代表団」公式 Facebook ページ  
<https://www.facebook.com/nagasakiyouth>

facebook

ナガサキ・ユース代表団

